

議会だより



表紙：山野 正憲
佐江子
さつき(ポニー)
〔上野〕

Contents

- | | | | |
|-------------------|---|---------------------|-------|
| ● がんばる美浜びとインタビュー | 2 | ● 議員報酬など議会改革特別委員会 | 8 |
| ● 議長 新年の挨拶／中学生議会 | 3 | ● 討論概要／現地視察 | 9 |
| ● 令和7年度12月補正予算 | 4 | ● 議会と語ろう会 | 10～11 |
| ● 常任委員会の動き | 5 | ● 写真で見る議会の動き | 12 |
| ● 所管事務調査 | 6 | ● 一般質問 | 13～19 |
| ● 12月定例会議案一覧／議案賛否 | 7 | ● 20歳のつどい／お知らせ／編集後記 | 20 |

がんばる美浜びと

自然体で楽しく暮らすことが一番!!



ジョン・カフェのマスター「ジョンさん（ニックネーム）」

議会の課題

- ・移住・定住の促進
- ・空き家対策

Q: 自己紹介をお願いします。

A: 敦賀市生まれ、京都に20年住んだ後、地元に戻る。ポニーを飼いたくて空き家を探し、美浜で出会う。2012年に引越して、現在13年経ちました。家族構成は、私と妻、馬（ポニー）1頭と猫3匹、鶏1羽です。職業はグラフィックデザインとラジオのDJをやっています。また、近くの空家利活用の家

「みんなの茶ノ間八三六」でジョン・カフェを毎週木曜日のみ営業しています。

Q: 美浜で住むことになり、ご苦労話があれば。

A: 区民の方々に歓迎していただき苦労というものを感じたことは、1度もありません。ずっと楽しく暮らしています。

Q: 現在もNPO法人ふるさと福井サポーターセンターに所属され、活動されていると思いますが、そのご感想は。（移住者を増やす方法は）

A: 住んでいる人達が楽しく暮らしている事がとても大切だと思います。美浜に住みたいと思っただけのように、今いる人達の幸せをまず考えるべきです。

Q: 今後美浜町に望むことは。

A: 経済第一ばかりを主張して、心のありかたをおなごりにする政策をもつそろそろやめるべきだと思います。人はお金がすべてではない。豊かさとは自然や人や動物すべて関わって生きているので、それをいっばん大事にして欲しいです。



みんなの茶ノ間八三六全景



飼猫を抱いている
ジョンさん

新年明けましておめでとうございます



安全・安心をかたちにする 美浜町議会をめざして

美浜町議会議長 川畑 忠之

明けましておめでとうございます。町民の皆さまにおかれましては、ご家族おそろいで健やかに新年をお迎えになられましたことを、心よりお祝い申し上げます。平素は、美浜町議会の活動に対し、深いご理解と温かいご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

現在、美浜町におきましては、人口減少や少子高齢化、地域経済の活性化、防災・減災、エネルギー政策など、直面する課題は山積しております。

議会では防災面において、喫緊の課題として、原子力災害や地震災害などのリスクに備え、孤立集落や避難困難区域を生じさせないため、美浜町と高島市を結ぶ「美浜・高島広域避難・連携道路」の整備実現に向け、鋭意取り組んでおります。

また、国道27号につきましても、災害時における避難道路としての役割を十分に果たせるよう、無電柱化の整備実現に向け、併せて取り組んでおります。

頻発する災害に備えるためにも、信頼性の高い強靱な幹線道路ネットワークの構築は、ますます重要となっております。

美浜・高島広域避難・連携道路

が整備されれば、南海トラフ地震発生時に、高島市側から国道27号へ接続し、敦賀市や若狭町方面に抜ける新たな避難ルートが加わることとなり、広域避難道路の多重化が一層進むことが期待されます。

いざという時に命を守る広域的な避難ルートとしての「命の道」の役割に期待するとともに、平時・災害時を問わず、安全で円滑な人流・物流を支え、地域活性化や生産性向上、ひいては地方創生の実現にも資するものと考えております。

「命の道」という存在のありがたみを、身をもって経験するような事態が起こらないことを切に願いつつ、美浜・高島広域避難・連携道路の整備実現による幹線道路ネットワークの構築に向け、行政と議会が両輪となって、安全・安心をかたちにする取組を、今後も強力に推進してまいります。

結びに、本年が町民の皆さまお一人おひとりととりまして、健康で実り多い一年となりますこと、そして、ふるさと美浜が笑顔とぬくもりに満ちた町として、ますます発展していきますことを心よりご祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。

中学生議会へ



11月7日16時30分から町役場議場において、17日に美浜中学校体育館で開かれる生徒総会を前に、議場を活用して生徒総会のリハールを行うために生徒会長や、保健美化委員長等10人が議場を訪れました。

生徒の皆さんは、「すごい、きれい」などと声に出しながら議場に入り、緊張した面持ちで、町長や各課長、議長席に座りました。

生徒総会で議長を務める生徒は、議長席で起立して挨拶を述べ、その後、出欠確認が行われました。

本番の生徒総会では、生徒から各委員会の活動への質問が出ることを想定しており、理事者側に座った生徒会長や各委員会の人達は、生徒役の教員の質問に堂々と答えていました。

議員は傍聴席でリハールを見守り、川畑議長は「仲間と意見を交わしながら、学校をより良くしようとする姿勢は、まちづくりにも通じる大切な力。議場に立った経験は、必ず大きな財産になる。」と生徒を前に講評しました。

町民1人あたり

物価高の影響を受ける全町民に
町内加盟店で利用できる商品券
(令和7年12月1日に町内に住所を有する方対象)

全世帯

デジタルか
紙を選択

デジタル

紙

※デジタル商品券か紙商品券を希望する場合の
意向確認書を町より送付

物価高騰対策事業 **2億794万円**

12月補正一般会計予算

7億4758万8千円

(補正後**119億8555万9千円**)

2

デジタル商品券の場合
キャッシュレス推進の目的の
ために2000円上乗せ
万円分給付

こども1人あたり一律

・0歳から高校3年生までのすべ
てのこどもに支給
※対象児童には令和7年10月1
日以降、令和8年3月31日まで
に生まれる新生児も含む

2万円給付

物価高対応子育て応援手当支給事業 **2588万1千円**

町民目線で見たと 12月補正予算の**使われ方**



美浜ふるさと納税特産品

- ・県営道路改良事業負担金 **505万円**
- ・町道川東42号線道路改良事業 **1509万円**
- ・県営河川局部改良事業負担金 **350万円**
- ・松くい虫被害対策事業業務委託料 **69万7千円**
- ・水産振興施設整備事業負担金 **97万4千円**
- ・農業委員報酬 **317万4千円**
- ・丹生介護予防センター
エアコン取替工事費 **107万6千円**
- ・ローイングの町美浜推進事業
業務用無線購入費 **306万9千円**
- ・社会体育施設管理事業
総合運動公園施設管理業務委託料 **363万3千円**



町道川東42号線

- ・美浜ふるさと納税推進事業
ふるさと納税一括代行サービス業務委託料他 **1955万7千円**
- ・エネルギー環境教育体験館整備事業
実施設計業務委託料他 **393万8千円**
- ・すみずみ子育てサポート事業
業務委託料 **899万6千円**
- ・こどものあそび場づくり事業
遊び場運営業務委託料他 **156万8千円**



こどものあそび場整備事業基金
積立金 **1億700万円**

障害児福祉サービス給付事業
障害児通所事業負担金 **1087万円**

住宅団地整備事業特別会計繰出
繰出金 **1億6715万4千円**

公共施設維持補修基金積立金
積立金 **6144万7千円**

常任委員会の動き

12月定例会では、予算決算常任委員会には議案6件、総務文教常任委員会に議案2件の計8議案が各委員会に付託され、それぞれの委員会で詳細を審査し、委員会採択を行いました。なお、今回は産業厚生常任委員会への付託議案はありませんでした。委員会での主な質疑と答弁を記載しました。詳細内容は、ホームページでご覧になれます。

<http://www.town.fukui-mihama.lg.jp/site/town-council/>
QRコードからもご覧になれます。



予算決算常任委員会

付託議案6件

議案第70号

令和7年度美浜町一般会計
補正予算(第3号)

(総務費)

問 美浜ふるさと納税推進事業1955万7千円であるが、年末〜来年3月の年度末にかけての追い込み時期の費用だと思いが、今年度の納税額見込みはこの程度か。

回答 この補正予算は、今年度納税額を3億6000万円とみて計上している。



(民生費)

問 こどものあそび場づくり整備事業122万6千円であるが、来年度以降を含めた全体費用が、デジタル遊具の変更で3000万円の増額という説明があったが、この変更は誰からの提案でどんな経緯で

変更になったのか。
回答 業者からの提案を基に、更に持続性のある施設、集客を見込める施設という観点で保護者の意見も踏まえて、町として協議した結果、今回の変更となった。金額の不足分は、令和8年度の当初予算での計上を考えている。



(土木費)

問 町道川東42号線道路改良事業1509万円であるが、場所はどこになるのか。

回答 美浜中学校の北側にある小倉住宅から給食センターまでを結ぶ140mの町道である。

(教育費)

問 議会と語ろう会において、夏に総合体育館2階

ジムのエアコンが故障して、長期間使用できなかったという苦情があった。今はどうなっているのか。

回答 現在修理を発注しているが、部品の調達ができず、まだ修理できていない。部品が入りしだい修理する。

総務文教常任委員会

付託議案2件

議案第76号

美浜町一般職の職員の旅費に関する条例の全部を改正する条例の制定について

(国家公務員等の旅費に関する法律の施行による条例改正)

問 「国家公務員等の旅費支給規程」にある「職務の級が10級以下の者」とは、町ではどの範囲になるのか。

回答 本庁の課長以下一般職の職員全員が該当する。

問 旅行は旅行命令権者が発するとあるが、具体的に誰か。

回答 参事級以下の職員は総務課長決裁、課長級などの管理職は副町長決裁になる。

議案第77号

美浜町原子力発電施設等立地地域指定による固定資産税の不均一課税に関する条例の一部を改正する条例の制定について

(原子力発電施設等立地地域の振興に関する特別措置法に定める省令改正に伴う条例改正)

問 当条例の内容を、少し具体的に説明願いたい。

回答 対象業種の企業が工場等を増設し、雇用人数等の条件を満たした場合、固定資産税が3年間不均一で軽減される。これまで7事業所が適用を受けている。

問 建物及びその附属設備も対象とあるが、附属設備の範囲は。

回答 建物に付属する設備、例えば空調設備や電気設備等が該当する。



所管事務調査



総務文教常任委員会

美浜町佐野区

11月9日、総務文教常任委員会の「人口減少」に関する所管事務調査の一環として、「移住・定住による空き家対策」等の先進集落である佐野区を訪問し、区役員会・水土景の会・次世代の会の役員の方々と、この日のために作成いただいた水土景新聞に基づき意見交換しました。以下要点を記します。



村づくりは人づくり
ということ、水土景新聞にも大書されていました。

大切なことは
区民が仲良くなること

基本は各種催しをしっかりと重ねてきたことです。

年賀式・烏帽子式・初集会・区祭礼（4月・7月）・弥美神社祭礼・区内作業（春・夏・秋）・戸祝い・バス旅行・カラオケ大会・野球チーム結成・町民レガッタ・区民交流BBQなど

特に大きな取り組みは

①農地を守る活動

2007年に、当時の野球チーム（佐野エンドレス）をベースに「水土景の会」が結成され、農地を守る活動が始まり宮々と続いています。

②活動内容をしっかり共有

毎年「水土景新聞」を作成して集落全体で報告

会を開催します。報告会は効果的な世代間交流の場になっています。

また毎月「佐野区通信」（区内広報）を作成し、情報共有されています。

③空き家対策の推進

ふるサポと連携して、空き家対策にしっかり取り組んできました。

取り組みの成果

①空き家ゼロの実現

世代間交流が盛んになり、若夫婦が移住してきたことで、6軒あった空き家がなくなりました。

②移住者も積極的に活動

に参加しており、佐野区になくてはならない存在になっています。

③「次世代の会」を結成

2021年に30〜40代が中心で「次世代の会」を結成し、今後の中心となるべく活動中です。

「私達は先輩の背中を見てきたので当たり前です」という主旨の発言があり、感動しました。

産業厚生常任委員会

城及び宿場町にかかる観光と街の活性化について

10月1日近隣市町の観光地と行政の関わりについて県内「熊川宿」と「今庄宿」を視察した。さらには10月7日8日には岐阜県伊那市の「岩村城」「岩村城下町」、中津川市「中山道馬籠宿」、愛知県「犬山城」「犬山城下町」を回りその観光状況と行政の関わりを調査した。

県内「熊川宿」においては区民によって「まちづくり特別委員会」を発足させ「空き家対策」や「町並み保存対策」「広報「活性化」の4部会で活動していた。その取り組みは全区民参加の活動であり、空き家保全活動やSNSやメディア対応、歴史的景観保全活動など幅広く活動し、行政とも密接に関わっている。



また、「岩村城下町」でも市が主導的立場をとり地元市民を巻き込んだ活動をしていた。

他方、有名観光地ではあるが地元の人達を巻き込んだ活動が見られない地域もあった。

「犬山城下町」では日帰り観光客が8割を占め、消費金額が少ないとの課題も行政担当者から示された。

いずれも歴史的観光地では趣ある町家の解体が進み、駐車場になるなど景観が損なわれている現状を各担当者が憂いていた。

提案

美浜町においてはもつと「国吉城」を前面に打ち出した観光誘客を進めるべきで、それには観光バスの駐車場、飲食・土産物店の展開、カラーアスファルト化、無電柱化などの施策の実施と歴史的建物群の保全活用を早急に進めるべきである。



令和7年 第5回 美浜町議会定例会 議案

令和7年第5回美浜町議会定例会期間：令和7年11月28日～12月18日

議案番号	件 名	委員会付託	議決結果
議案第70号	令和7年度美浜町一般会計補正予算（第3号） 4億4568万6千円増額し、歳入歳出予算総額を116億8365万7千円とする。	予算決算	可決
議案第71号	令和7年度美浜町国民健康保険事業特別会計補正予算（第3号） 706万1千円増額し、歳入歳出予算総額を11億4096万4千円とする。		可決
議案第72号	令和7年度美浜町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第2号） 1730万3千円増額し、歳入歳出予算総額を1億8789万7千円とする。		可決
議案第73号	令和7年度美浜町介護保険事業特別会計補正予算（第3号） 2559万2千円増額し、歳入歳出予算総額を11億9761万6千円とする。		可決
議案第74号	令和7年度美浜町住宅団地事業特別会計補正予算（第2号） 1億6715万4千円増額し、歳入歳出予算総額を2億518万4千円とする。		可決
議案第75号	令和7年度美浜町下水道事業会計補正予算（第2号） 5095万7千円増額し、予算総額を9億1674万7千円とする。		可決
議案第76号	美浜町一般職の職員の旅費に関する条例の全部を改正する条例の制定について 国家公務員等の旅費に関する法律の一部を改正する法律が施行されたことに伴う関係条例全部の改正。	総務文教	可決
議案第77号	美浜町原子力発電施設等立地地域指定による固定資産税の不均一課税に関する条例の一部を改正する条例の制定について 原子力発電施設等立地地域の振興に関する特別措置法第10条の地方税の不均一課税に伴う措置が適用される場合等を定める省令の改正に伴う適用期限延長に係る関係規定の改正。		可決
議案第78号	美浜町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について 国家公務員等の旅費に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴う議員の関係規定の改正及び議員報酬の引き上げに係る関係規定の改正。	議員報酬など議会改革	可決
議案第79号	美浜町議会政務活動費の交付に関する条例の制定について 議員活動の充実に向けて美浜町議会議員に交付する政務活動費に係る条例の制定。		可決
議案第80号	令和7年度美浜町一般会計補正予算（第4号） 3億190万2千円増額し、歳入歳出予算総額を119億8555万9千円とする。	—	可決
議案第81号	令和7年度美浜町診療所事業特別会計補正予算（第2号） 42万9千円増額し、歳入歳出予算総額を1億2345万7千円とする。	—	可決
議案第82号	令和7年度美浜町介護保険事業特別会計補正予算（第4号） 61万円増額し、歳入歳出予算総額を11億9822万6千円とする。	—	可決
議案第83号	令和7年度美浜町下水道事業会計補正予算（第2号） 356万円増額し、予算総額を13億6340万3千円とする。	—	可決
議案第84号	美浜町一般職の職員の給与に関する条例及び美浜町一般職の任期付職員の採用及び給与の特例に関する条例の一部を改正する条例の制定について 人事院勧告等を踏まえた関係規定の改正。	—	可決
議案第85号	美浜町特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について 人事院勧告等を踏まえた美浜町特別職の期末手当の支給割合に関する関係規定の改正。	—	可決
議案第86号	美浜町会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の制定について 人事院勧告等を踏まえた関係規定の改正。	—	可決
議案第87号	美浜町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例の制定について 人事院勧告等を踏まえた美浜町議会議員の期末手当の支給割合に関する関係規定の改正。	—	可決
議案第88号	財産の取得について 美浜町役場業務用ノートパソコンの更新（68台）。	—	可決
発議第2号	地方公共団体情報システムの標準化に関する意見書 国に対する「地方公共団体情報システムの標準化に関する意見書」の提出。	—	可決

※略称 ＜予算決算＞…予算決算常任委員会 ＜総務文教＞…総務文教常任委員会 ＜議員報酬など議会改革＞…議員報酬など議会改革特別委員会

賛否が分かれた議案

議席順に掲載（○賛成・×反対・一欠席・□退席）し、反対または退席等があった議案だけ載せています。

※議長（川畑忠之）は採決に加わりません。

議案番号	幸丈	兼田	中牟田	上道	高橋	梅津	河本	辻井	松下	崎元	山口	藤本	竹仲
議案第70号	○	○	○	×	○	○	×	○	×	○	○	○	○
議案第78号	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議案第79号	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○

12月定例会

議員報酬の引き上げ(物価高騰対策)と 政務活動費の条例を承認

(1) 議案第78号

美浜町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

これは、国家公務員等の旅費に関する法律の一部を改正する法律の施行に伴い、旅費の支給規定及び名称が改正されたこと及び特別職報酬等審議会の答申を踏まえ、議員報酬額を引き上げるに当たり、所要の改正をする必要が生じたことから、本条例の一部を改正するというものです。

特別職報酬等審議会の答申に係る改正は、議員の月額報酬を現行の23万5000円から27万4000円に引き上げるものです。

また、議会議員の職名欄に「常任委員長」、「議会運営委員長」を追加し、一般議員と比較して9000円の割り増しとなっています。

さらに、期末手当を常勤特別職と同様の支給割合へ改正するとなっています。

施行期日は、旅費法改正に伴う改正が令和8年4月1日、特別職報酬等審議会の答申に係る改正が令和8年3月15日です。

(2) 議案第79号

美浜町議会政務活動費の交付に関する条例の制定について

これは、議員活動の充実に向けて、調査研究や政策立案に必要な経費を交付し、議員活動の透明性確保と議会の活性化を図るため、本条例を制定するというものです。

主な内容は、地方自治法の規定に基づき、美浜町議会議員の調査研究その他の活動に資するため必要な経費の一部として、政務活動費を交付することに関し必要な事項を定めるものです。

政務活動費の交付額及び交付の方法を規定し、各月1日(基準日)に在職する議員に対し、月額3万円を期ごと(前期、後期)に交付する。

前期は4月1日から9月30日、後期は10月1日から翌年の3月31日。前期、後期の最初の月に当該期に属する月数分を交付する。

ただし、期の途中で任期が満了する場合、任期満了日の属する月までとするなどの規定があります。

また、充てることができる経費の範囲として、議員が行う調査研究、研修、広報、広聴、住民相談、要請、陳情、

各種会議への参加等政務活動に要する経費に対して交付するという規定。

収支報告書の提出として、交付を受けた議員は、規則で定める様式により、領収書等を添付して収入及び支出の報告書を作成し、翌年度の4月30日までに提出しなければならないという規定。

返還として、交付を受けた議員は、その年度において交付を受けた総額から支出した総額を控除して残余がある場合は、その額を返還しなければならないなどの規定があります。

また、町長は、交付を受けた議員が、この条例に違反した場合は、全部又は一部の返還を命ずることができるということが規定されています。

施行期日は令和8年4月1日です。



討論概要

【12月定例会】

1.【反対討論】議案第70号

令和7年度美浜町一般会計補正予算
(第3号)

エネルギー環境教育体験館の整備事業に、「大阪・関西万博展示物移設運搬費」と「実施設計業務委託料」、合わせて393万8千円が計上されています。

これは、大阪万博で使用されていたEVバスの停留所の一部を、美浜のエネルギー環境教育体験館「きいばす」に移設・展示することで、「半世紀前の大阪万博へ美浜から原子力の電気を送った歴史とともに、大阪・関西万博のレガシーを未来に継承していきたい。」というものです。が、町民の誰がこんな無駄遣いを望んでいるのでしょうか？

今回の予算計上は、展示物の運搬と実施設計業務の委託料の393万8千円にとどまりますが、今後発生する工事費などを考えるとこんな無駄な事業はありません。

一方で、住民サービスの方は、総合体育館の空調や照明が一向に直らないとか、漁協などの施設の老朽化が進み危険というような課題が山積しています。

大阪万博で使用されたバス停の移設なんて、多くの町民からすれば何にお金使ったんだよ！って話ですよ。

こういう無駄な事業こそやめて、住民サービスや人材の確保・定着にもつ

と予算を使つべきです。

公共サービスの安全・安定・安心、質の向上を考えるなら、公共サービスを提供する側の働く環境をより良くして、提供されるサービスで住民が生き生きと生活する。そういう環境を整えるのが町民ファーストの考え方です。

多くの町民が望んでいない、こういう住民サービスに繋がらない無駄な事業はやめるべきだと、私は考えていますので、本議案を認めることはできません。(河本議員)

2.【反対討論】議案第78号

美浜町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案の内の議員報酬に関する項目において、引き上げの根拠として町民の理解がアンケートより得られたと解釈されたからだと考えます。しかし、私には不可解な点が多数あるように思います。町民に発送されたアンケートは、統計学的には有効回答であったと思いますが、私的にはどうもスッキリしません。議員報酬等に関する質問に「議員報酬等の額を知っているか」という項目があります。知っていると回答した人が111人。これに対し、「現行の美浜議会の議員報酬等の額についてどう思いますか」という項目に113人が多い、適当が160人と答えています。額を知らないのにどうして答えられるのか、分かりません。その他多々アンケートの集計に疑問を持ちます。また、引き上げの額についても根拠が分かりません。長い時間かけて議論してきた、特別委員会の内容が組み込まれていないように思います。(上道議員)

3.【賛成討論】議案第78号

美浜町特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

次に町民から選ばれた議員の活動を保障するために少しでも前進させるべきだと考えることから本議案に賛成します。(河本議員)

4.【反対討論】議案第79号

美浜町議会政務活動費の交付に関する条例の制定について

参考にする他町村の額より極端に多額であります。また、使途について充分な議論がなされていないということであります。今回は見送り、第19期の議員に議論していただき、使途、額を決めたいだと思います、反対しました。(上道議員)

5.【賛成討論】議案第79号

美浜町議会政務活動費の交付に関する条例の制定について

報酬の引き上げは物価高騰対策にとどまりますが、政務活動費の制定とセットとして考えると、これにより志し高く立候補を考える町民が増えれば、なり手不足対策を検討してきた議会の目的とも合致するので本議案に賛成します。(河本議員)

現地視察



12月10日午前10時より、(株)椿本チエイン「福井美浜工場(山上地区)」を視察しました。大阪市に本社を置き、1917年創業という老舗の会社です。売上高は2791億円、従業員数8768人の大きな企業です。25年8月1日に当町で人工型植物工場の操業を開始しています。

元々の事業内容は、各種動力伝導および同付属品の製造販売が中心で、会社の基本スタンスは「社会から必要とされ続ける企業を目指す」としています。「福井美浜工場」は、チエイン事業を活用したアグリビジネスへの挑戦です。水耕栽培で、播種から育成管理、販売までを一貫して行っています。

美浜町に限らず日本は、急激な人口減少にあり、農業人口も大きく減少しています。激変する環境の中で、社会は安定した食料生産を求めている、その必要性に応える事業でもあります。

「身土不二(しんどふじ)」という言葉があります。「その地の土が人間の体を育てる」という教えます。露地物野菜と競合する分野ですが、相互を補完する事業として、当町の振興に寄与していただけることを期待しています。

議会と語ろう会

今年度第2回目の「議会と語ろう会」は、町内の各種団体等を対象に2班編成で意見交換しました。参加団体からはそれぞれの立場の垣根を超えてご意見をいただきました。

これは、2班ともにいえることです。各専門分野からの意見や要望は、斬新な発想や考え、また、議会に伝わっていない事があることも分かり、今後の課題も含め大変勉強になりました。

●産業厚生常任委員会班

11月21日 午後7時から

対象団体：美浜町スポーツ協会・美浜町文化協会・美浜町農業担い手協議会 会場：役場正庁

●総務文教常任委員会班

11月21日 午後2時から

対象団体：わかさ東商工会美浜支部、(一社)若狭美浜観光協会 会場：わかさ東商工会館3階

12月4日 午後7時から

対象団体：美浜町漁業協同組合、会場：役場議会会議室

産業厚生常任委員会班

1 主な意見の要旨

(1) 議会と住民・団体との関係について

- ・農業担い手協議会から、「要望を聞く場」にとどまらず、議会側からも農業・まちづくりの課題認識や方向性を示したうえで、住民と一緒に議論を深める場にしてほしい、との意見。

- ・また、議員が日常的に現場へ足を運び、各団体・地域の実情を把握してほしいとの要望もあった。

(2) 農業の担い手・経営環境について

- ・新規就農支援はあるが、「支援終了後の販路・収益の『出口』」が弱く、経営が続けられるか不安との声があった。

- ・農産物の販売先や、道の駅などの活用を含め、「どこで売り、どう収入につなげるか」という視点での施策強化を求める意見。

- ・里山保全や空き家活用、子育て・移住と組み合わせた暮らしのモデルづくりなど、農業を軸にした地域維持のアイデアも出された。

(3) 道の駅・まちづくり・財政の見える化



- ・美浜町は「出口（人やお金の流れ）」が弱いという指摘があり、道の駅整備にあたっては、当初構想と実際の運用にギャップが生じたとの意見があった。

- ・大型事業では、計画段階からの情報共有と、進行過程でのチェック・軌道修正を、議会がしっかりと果たしてほしいとの声。

- ・一方で、議会側からは、分野別に財政状況を見える化する資料を作成していることを説明し、住民にとってさらに分かりやすい工夫が必要との認識を共有した。

(4) 文化協会・スポーツ協会からの意見

- ・文化協会からは、会員の高齢化や物価高の中で、現行補助では

- ・負担感が大きいこと、数年内に予定される県レベルの大規模事業に向けて、十分な支援を検討してほしいとの要望。

- ・スポーツ協会からは、コロナ後の活動低迷や指導者不足の実情、体育館空調設備修繕の遅滞など、施設面の課題が示された。

- ・また、今回の意見交換会の案内期間が短く、十分な意見集約ができなかったことから、次回以降は早めの周知とテーマ提示を求める意見があった。

- ・文化・スポーツの活動を「健康づくり・観光・地域活性化」と一体で捉え、投資としての位置づけを明確にしてほしいとの提案もあった。

(5) 里山・サル被害・空き家等

- ・捕獲等の取組によりサル被害は一時期より落ち着いているものの、里山管理や人の住み方を含めた「長期的な地域のあり方」を考える必要があるとの指摘。

- ・空き家が増える中で、移住・就農・子育てと組み合わせた活用策を検討してほしいとの意見。

2 議会としての今後の検討課題

- ・農業分野では、支援後の「出口」整備や、里山・空き家と一体の地域維持策について議論を深める。
- ・大型事業について、当初構想と運用のズレが生じないよう、早期の情報共有とチェック機能を強化する。
- ・文化・スポーツを「まちの魅力発信・健康づくりへの投資」と位置づけ、補助や施設整備の優先順位を総合的に検討する。
- ・意見交換会については、開催時期・テーマ設定・案内方法を見直し、「要望聴取」から「双方向で政策を練り上げる場」へ質の向上を図る。

総務文教常任委員会班

わかさ東商工会・若狭美浜観光協会

両会長をはじめ10名のご出席のもと意見交換しました。

地場産業の後継者について

意見 観光業は一次産業（農業・漁業）に支えられている

が、後継者不足で将来が不安で

ある。議会の認識はどうか。民宿は激減し、この先5〜10年で更に2分の1〜3分の1に減ると思われ心配である。

回答 議会も人口減少は喫緊の課題と考え対策の重要性を指摘してきた。施策の執行権限は首長にあり、議会の権限はその監視になるが、先進自治体や集落の視察等により、更に有効な施策を提案するべく取り組んでいく。

議会の政策提案について

意見 各課の施策が縦割りで、横の連携が足りないと思う。議会はこれら施策に横串をさし有効な提案ができないか。



回答 議会が把握できる情報は議案書レベルに限られ、その背景や過程は十分把握できていない。また、議案書の段階では、県や国の補助金が約束されていることが多く、大きな変更は容易ではない。そうした理由で議会が各種施策に横串をさすのは困難である。

回答 住民目線で地域課題を継続的に協議し、施策に反映できる仕組みが必要だと思う。

意見 町行政に対し、協会から各種の要望をしているが、議会はどうか対応しているのか。

回答 議会にはそうした要望は開示されない。集落の要望も同様であり、必要な要望は議会にも提示いただきたい。

商工会館の建替えについて

意見 会館は築50年が経過し老朽化が目立つ。建替えを検討するので協力願いたい。

回答 3階建てだがエレベーターもない。また道の駅屋上からの眺望の妨げにもなっており、ご要望はよく理解する。

美浜町漁業協同組合

美浜町漁業協同組合、傘下の漁家組合・定置網組合の各組合長をはじめ8名のご出席のもと意見交換しました。

漁協建屋（日向）の建替えの件

意見 漁協の建屋（日向）の老朽化が酷い。ここは美浜町漁業の中核拠点であり、美浜・菅浜・丹生の漁家組合も、建替えが喫緊課題と考えている。要望書を作成中であるが、理解と協力を願いたい。

回答 現場を拝見したが、天井が剥がれ落ちるなど早期の建替えが必要と思う。いろいろなお力添えをしていきたい。

漁業後継者の募集・育成の件

意見 日向の定置網は、美浜町漁協の柱になっているが、従事者が減り大きな不安がある。後継者の募集・育成事業への支援をお願いしたい。



回答 行政に対し、当要望をしっかりと伝え実現に努力する。

藻場の再生について

意見 海水温の上昇やガセの異常繁殖が原因と思われる藻場の減少が酷く、ワカメ・サザエ・ウニ等が激減している。

回答 専門的な機関に「高水温に強い藻の開発」や「効果的なガセ退治方法の開発」等の研究を依頼すべきだと思う。

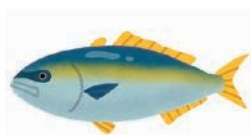
先進地の情報提供について

意見 例えば陸上養殖等、先進地の情報を提供願いたい。視察等を通じて漁業先進地の情報収集に努める。

久々子湖の湖水汚濁について

意見 湖水が黄色くて匂い、船の客から汚い湖と言われる。シジミ等も思わしくなく、調査と対策が急務だと思う。

回答 この問題は議会でも共有されつつあり、しっかりフォローしていく。



写真で見る議会の動き

令和7年10月19日
町民レガッタ



交流議会議員の部、県外から石川県津幡町、滋賀県大津市、嶺南から敦賀市、若狭町、おおい町、美浜町そして県議会の7議会がローイングを通して理解と地域振興への親睦を深めました。

令和7年10月24日～25日
原子力総合防災訓練



今年度の福井県原子力総合防災訓練が実施され、大地震による美浜発電所の全面緊急事態を想定した、おおい町への避難訓練も行われました。

令和7年11月10日
敦賀・美浜地域開発協議会



「敦賀市原区の地域づくりの現状と今後の展望」について、原区の区長・役員の方から、地域活性化の歩みと建築中のふるさと茶屋おお原の里のコンセプト等の説明を受けました。

令和7年10月24日
市町議会議員合同研修会



市町議会議員合同研修が行われ「地方創生のこれから―豊かな地域と住民自治を求めて」及び「どこへ行く日本の政治」と題して二人のジャーナリストからレクチャーを受けました

令和7年10月28日
美浜町・若狭町議会振興協議会



若狭町みさき漁業体験施設「みささち」を視察しました。この施設は廃校となった旧岬小学校を活用しており、福井工大と連携を図り指定管理で運営しています。

令和8年1月11日
敦賀美方消防組合出初式一斉放水



令和8年度的美浜消防団出初式が挙行されました。耳川の川岸で今年の無火災を願い一斉放水が行われました。その後、はあとぴあホールにおいて、観閲式が行われました。

町政を問う！一般質問



なかむた はるこ 議員
中牟田 春子

① 男女共同参画社会の 実現について

問

平成30年3月策定の「第3次美浜町男女共同参画推進計画」は、令和4年度をもって、計画期間が終了するため、これまでの成果や課題、社会情勢の変化を踏まえ、より効果的な政策を進め、男女共同参画社会の形成に向けた新たな計画を策定するものとして、令和5年3月に「第4次美浜町男女共同参画推進計画」が策定されました。町は、長年にわたり男女共同参画の取り組みを推進してきましたが、町民にとってどのような成果があり、またどのような課題があるのか伺う。

町長

平成11年に「男女共同参画社会基本法」が国で制定され、男女共同参画はわが国の重要な課題に位置づけられました。すべての人が、性別にかかわらず人権を尊重し、かつ責任を分かち合い、その個性と能力が十分に発揮できる「男女共同参画のまち美浜町」の実現を目指す上で、取り組みの指針となるのが「美浜町男女共同参画推進計画」です。本計画に基づき、町民の皆さんのご理解ご協力をいただきながら、これまで様々な取り組みを進めております。



第4次美浜町男女共同参画推進計画

まちづくり 推進課長

長年にわたる男女共同参画の取り組みの成果として、国や自治体等において議員や審議会、委員会など意思決定のプロセスへの女性の関与が増えたことにより、女性の視点を踏まえた政策や、女性が社会で活躍するための支援の充実が成果として挙げられます。また、令和3年度に実施した「第4次美浜町男女共同参画推進計画」策定の際のアンケート調査では、半数以上のかたが家庭や学校現場、職場において「20年前と比べ男女共同参画が進んでいる」と回答しています。

一方、集落における女性役員の登用等がやや低い状況や、家族の介護や育児の負担が、女性に偏りがちな現状といった課題は依然として残っていることから、引き続き慣習等の見直しや意識の改革に取り組みが必要があると考えております。

問

「第4次美浜町男女共同参画推進計画」では、男女共同参画社会の実現により男女が互いを思いやり、協力し合い、性別に関わりなく、個性を活かし能力を発揮することができる「男女共同参画のまち美浜町」を目指すとし、3つの基本目標また9つの重点課題は、どのように取り組んでいるのか伺う。



まちづくり 推進課長

「第4次美浜町男女共同参画推進計画」では、男女が互いを思いやり協力し合い、性別にかかわらず個性を活かし能力を発揮することができる「男女共同参画のまち美浜町」を目指しています。

本町の男女共同参画における主な課題として次の3点、性別による固定的役割分担意識が、慣習やしきたり等に影響を与えていること。

町の審議会等への女性の登用率が目標値3・5%に達しておらず、方針等の決定の場への女性の意見が不十分であること。

家事や育児、介護における負担が、女性に偏りがちであること。が挙げられると考えております。

そこで「第4次美浜町男女共同参画推進計画」に基づき、美浜町人権尊重啓発協議会との連携の下に、性別に関わらず誰もが自分らしく活躍できる地域づくりに向けた意識啓発を集落単位で進めております。令和4年度は3集落、令和6年度は10集落において「多様性」や「男女平等」を内容とする研修会が行われています。

一般質問

一般質問はMMネットの行政チャンネルで翌日の午後8時、翌々日は午後1時から放送されています。

12月定例会では7人の議員が一般質問に立ち、町行政のあり方について、問いいただきました。



たけ なか よし ひろ 議員
竹仲 良廣

① 関電美浜のリプレースに向けた現地調査に 対する交付金を申請 するの

答 年間1億7千万円の交付申請は来年度から可能となるが申請の方向で検討する。

問

関西電力美浜発電所がリプレース検討に向けた現地調査に着手したこと、福井県と美浜町は国から年間1億4千万円が交付される交付金の対象となった。これには国へ交付申請を行わなければならないが、今回申請するのか

副町長

本調査は11月に開始されたところであり、申請は来年度から可能となる。配分や使途などについて県と調整の上、国への申請を検討していく。

② 関電が立地地域の 振興に年間50億円を 拠出、その申請方法は

答 県と立地自治体が直接申請できるが、現時点でその詳細説明を受けていない

問

関西電力は県内の原子力発電所立地地域の振興や課題解決に向けた新たな資金として年間約50億円を継続して拠出するとして、本年度は初期的な基盤財源として150億円を上乗せし計207億8千万円を拠出することが発表された。関電は福井県・原子力発電所立地地域の将来像に関する共創会議において掲げられた事業への活用などを想定しているがそれ以外の取り組みにも使えている。今年度は後4カ月程だが、どのように推移しているのか。

町長

個々の寄付は、福井県・立地町等が信託銀行へ申請をし、信託銀行は、第三者機関に対して審査を依頼し、第三者機関は、その申請内容を審議・確認した上で、信託銀行を通じて福井県共創へ寄付が行われると聞いている。具体的な申請方法や時期については現時点では詳細な説明を受けていない。

問

この資金は直接申請できる自治体は県と美浜町、おおい町、高浜町に限られるとしているが、民間団体も直接申請が可能としている。従前行われている、祭礼などの寄付や取り組みはどうなるのか。

エネルギー政策課長

従前から地元区に対して行われた取り組みも、このスキームを含めて継続的に実施されると伺っている。

る。町といたしましてはこの仕組みが円滑に進められ、客観性・透明性の高いものとして共創会議に掲げられた大きな事業等に活用されるものと理解している。

③ 久々子湖の水質悪化、 シジミの生息に問題が あると思うが

答 県の検査では基準値を超える時もあるが、すぐに環境への影響はない

問

レイクセンター棧橋や浦見川付近に大量の浮き草が発生していたり、水面の色も灰色がかっていた。今年の秋に大量の小魚の死骸が浮いているとの情報もあった。近年久々子湖の水質が悪化しているように感じるが。

住民環境課長

湖の深部に溜まっている硫化水素の影響が考えられることから、二州健康福祉センターで水質調査を行ったが有害物質は検出されなかった。

久々子湖の水質状況にいては、最大値がここ数年、環境基準値を超える頻度が増加傾向にある。県に確認したところ、すぐに環境への影響はないということだが、基準値を超える時期もあることから、今後も注視していく必要がある。

問

これまでシジミの増産と湖の浄化にもつながるとして、穴道湖のヤマトシジミを放流してきたが、上手く生育

していないようである。原因はどこにあると考えるのか。

産業政策課長

研究者での調査研究では、シジミの生息に影響があるのは、湖のコンクリート護岸化や、砂の流出による浅い水深の生育場所の減少している。

また、地球温暖化に伴う水の上昇や高潮による高塩分濃度化も言われており、特に夏から秋にかけてシジミの生存率を低下させるほどの塩分が造成浅場でも発生している。毎年町が実施しているその他の環境調査の水質検査結果においては、シジミの生息環境の基準値を満たしており、ヤマトシジミが生息するための環境として問題はないと報告を受けている。

問

久々子湖の浄化のため三方湖を含め、いくつかの大学などの専門機関で湖周辺に研究所を設置するなどして数年単位での調査研究を行っていたが、久々子湖にあった水質浄化を行ってはどうか。

町長

専門家を交えて、資源確保としての三方五湖の環境保全、水質浄化、透明度の確保も含めて検討して必要があると考えている。良いご提案をいただいた。皆様方と知恵を絞りたい。がらしつかり我々の貴重な財産である三方五湖の自然環境の保全にこれからも努めていく。

④ 町営住宅の老朽化による改修を してはどうか

答 町の若者、子育て世帯向け賃貸住宅政策とのバランスを考慮しながら、検討する

問

全国的に高齢化、少子化が進み、住宅事情もかなり変化している。2人世帯や単身暮らしが増えている。高度成長期に造られた集合住宅は空き部屋が増加しており、各地で集合住宅のリノベーションが進んでいる。美浜町も現在のニーズに合った部屋のリノベーションを行ってはどうか。

土木建築課長

本町の公営住宅は、公営住宅法に基づき、住宅に困窮する低所得者に対して、低廉な家賃で住宅を供給することを目的として、国の補助事業により整備したものであり、目的外のリノベーションについては、国の承認が必要となる。こうしたことを踏まえ、その必要性や施設の耐用年数、効果はもとより、町の若者、子育て世帯向け賃貸住宅政策とのバランスを考慮しながら、検討する必要があると考える。今後、将来を鑑みながら、一か所に集約した施設を運営する発想も必要と考える。



うめづ たかひさ 議員
梅津 隆久

① 行政に対する町内 各地区の要望に 対する処理・管理 フォローについて

問

町行政区38力所の令和7年9月末までの各区長他提出要望未処理案件はどの程度あるのか。

町長

集落要望だけでなく、各団体等からも多く含めて300件近く有り、主な内容は、道路や水路の整備、防災対策、地域活動への支援など多岐にわたっている。要望の対応については、単年度で完結するものや長期間協議を重ねながら継続的に取り組んでいくもの、また、国や県、関連団体に要望するもの等、様々あるが、状況に応じて現地に赴き、地元の方々、団体の方々の意見を聞きながら少しでも要望

に比べられる様、限られた人員と予算の中で鋭意対応に取り組んでいる。

総務課長

要望項目に対して、約4割が今年度中に対策を講じることとしており、約1割が次年度以降の対応を検討している。その他約5割については、地元区その他、県や関連団体と解決に向けた協議、調整を継続的に進めている。

意見

残件処理していくためには、優先順位をつけ、予算措置のため、国、県の補助金も、貰ってこないといけない案件も多数あると思うが、合理的に進めていけば積み残しが徐々にでも減っていくのではと考える。町民、区民が分りやすく進捗状況を理解出来る様、提示すべきと思う。

総務課長

要望内容の約8割200件余りが土木建築課に集中しており、限られた人員の中で防災や生活基盤に直結する道路、河川、排水など大小多岐にわたる要望に応えられる様、通常業務の執行と合わせて対応

問

地区改善要望に対する町の処理進捗管理提供は、住民の満足度向上と、信頼を得るために非常に重要であると考え。要望を出しても一方通行で、区民や町民の方は、分からないことが多いことから、進捗管理システムを構築し、担当課に聞かなくても自由に区長、代表の方々が確認し、検討状況が容易に得られるようにICTの導入で管理の省力化と町民サービスの向上に寄与すべきと考えるが見解を求める。

総務課長

ICTを活用した管理システムの導入提案については住民サービスの向上や行政事務の効率化に資する有意義な視点であると受け止めたい。

意見

ICT導入により、カテゴリ別に分類し、対応緊急度の指定と、対応の優先順位をつけ合わせて処理完了までのロードマップ台帳を作成し、端末ディスプレイで検索可能として住民サービスの向上を図るべきと考える。

② 町政功労者表彰・ 美し美浜の地域愛 表彰について

問

児童通学見守り（スクールガードボランティア）をはじめとする長期のボランティア活動をしている方々について町としてどのように実態を把握しているのか。一定期間以上継続し、地域の安全確保に貢献している方々を町政功労者表彰者の候補者として調査し顕彰者の拡大を図っていく考えがないのか。

総務課長

ボランティア活動については、ボランティア保険の加入状況をもとに把握しており、今年度は、保護者、祖父母や地域の方々、計62名の協力を頂いた。地域の思いを持って継続的に安全確保に取り組んでおられる方々をしっかり顕彰していくことは、町づくりや地域活性化に繋がるものと考えている。表彰規則に基づき評価し、公平な基準のもと適切な表彰に努めていきたい。

問

町長はこれまで「地域の活性化なくして町の発展なし」との考えを示してこられたところであるが、このように住民主体で地域愛の醸成や地域活性化に向け取り組む団体について「美し美浜の地域愛表彰」基準や対象団体についてお聞きする。

まちづくり推進課長

美し美浜の地域愛表彰は、町民の地域を愛する気持ちを醸成するため社会貢献活動を10年以上実践している団体または、地域愛の醸成に資する教育活動3年以上の団体を称える表彰である。今後、地域力の向上、さらには時代を担う人材の育成に活動している方々まで広げていきたいと考える。

意見

各地域で色々と活性化の推進と定着を図っていくと努力している団体には貢献年数にこだわらず、活動内容を評価し選考委員会で選出し、称賛してあげる事が町の発展に繋がっていくと考える。

一般質問

一般質問はMMネットの行政チャンネルで翌日の午後8時、翌々日は午後1時から放送されています。

12月定例会では7人の議員が一般質問に立ち、町行政のあり方について、問いいただきました。

町長

町では、原子力に加え再生可能エネルギーの積極的活用にも力を入れている。産業団地の工場、三方五湖の電池推進

問

関西電力ののりプールに係るボーリング調査が始まり、議会も現地視察を行った。今回は、原子力ではなく、自然の力を利用した再生可能エネルギーの「風力発電」に関する所見と、現在新庄地区で取り組まれている調査事業はどのように進んでいるのか伺う。

答

地元へは説明会を行い、事業化に向け取り組んでいる。

① 新庄地区の風力発電の進捗状況は。



辻井 雅之 議員

将来の町づくりビジョンに関する「自然環境・人口維持」

遊覧船などは太陽光発電を利用している。新庄地区の風力発電については、現在、事業者が計画を進め、風量調査や防災、生態系を含めた環境アセスメントの調査が行われており、事業適地であると聞いている。町としては、地元の理解を得ながら、事業化に向けた取り組みが適正かつ着実・丁寧に進められるよう注視して行く。



イメージ

エネルギー政策課長

環境影響評価の全4段階の内、3段階目となる「準備書」の策定を進めている。令和5年には、新庄地区の総会において「事業同意」が決議されている。事業者とのコンセンサスは十分に図られるよう行政としてもしっかり求めて行く。

問

今から15年後2040年の人口ビジョンの数字は7900人という数字である。この数字を作り出すには、若者の転入・定住・転出抑制、住みやすい住宅環境や働く場所が必要である。町は、住宅・産業団地の整備を行って

答

② 町の人口ビジョン
目標を達成するために
新しい住宅団地整備や
企業誘致でも人口ビジョンに貢献したい

まちづくり推進課長

おり、東地区の美し野区や若狭美浜インター産業団地の取組みは、人口ビジョンに対する効果が見られ、まちづくりに貢献していると考ええる。しかし、この区には交流の拠点となる集会場がなく、近くの「黄舎」を借用している。余計な不便な面も想像すると、余計なお節介かもしれないが集会場建設が急務であると考えている。

意見

現在、NPO法人が管理する移住居住体験施設「黄舎」を借用して集会場としている。「黄舎」の使用目的には反するものではないので認めている。
美し野区は集会場整備についての協議や、アンケートの結果、建設費や維持管理費等も伴うことから公共施設の利用も可能なものの今のところは不要との判断にいたっている。
美し野区には、集会場を作る最適な場所もあり、今後の区づくりには、必

問

山上産業団地の二画が空いているが誘致計画はあるのか。



産業政策課長

産業団地は平成28年4月に分譲を開始し、この9月には6社目となる田中紙管が敦賀から進出予定で協定を締結した。あと1区画残るが、現在進出に強い関心を示している企業があり、協議を進めている。



こうもと たけし 議員
河本 猛

① 訪問介護 高齢者は 増え、担い手は減る。 支援体制の強化は 急務！

答 ひきつづき介護人材の確保、高齢者の生活支援強化などを進める。

問

訪問介護事業所を取り巻く課題は、「給与が上がらないから辞める」とか「仕事がキツイから続けない」などの報酬だけではなく、現場で感じるのはそもそも人手が足りないという「深刻な人材不足」と聞いています。

特に生活援助（掃除・洗濯・買い物など）は報酬が低いため、最初から対応しない事業所も多くあり、全国の場合、大手であっても断られるケースが増えているといえます。ケアマネジャー

は 大手の事業所に断られれば、中小規模の事業所に依頼せざるを得ないが、そこでも人手が足りないために受け入れてもらえないというジレンマに陥っているといえます。こうした状況がもたらす影響は、必要なケアプランが組めないという現実であり、「希望するサービスが確保できない」と悩むケアマネジャーが増えているといえます。

また、要介護認定者は年々増え、団塊の世代が後期高齢者に突入していくタイミングで高齢化の進行が加速しています。その一方で、担い手であるヘルパー・介護職員は減る一方です。

高齢者は増え、担い手は減る。需要は右肩上がり、供給は右肩下がり状況です。美浜町のような小規模自治体では、事業所数が少なく、1つの事業者が廃止や閉鎖に追い込まれれば、他に対応できるところが無く、高齢者の福祉サービスの低下に直結することから、ここに自治体が重

点的に支援する政策的課題があると考えています。現場の負担軽減と人材定着に向けた支援体制の強化が急務であると考えますが、美浜町は、今後、どのような施策展開を持っているのか考えを伺います。



健康福祉課長

町が昨年度、介護事業所に行ったアンケートによると介護事業所の職員の充足率は86%となっており、特に介護福祉士の充足率が60%程度と厳しく、人材不足が深刻な状況となっています。こうした状況を踏まえまして、町では 令和4年度に介護事業所の介護人材確保に向けた支援制度を創設

し、これまで、町内事業所に就労した10名の方に就労祝金を、また、その後3年間就労を継続した2名の方に就労継続給金を給付するなど、一定の成果があったと考えています。

また、介護人材不足は介護事業所だけではなく、障害福祉サービス事業も同じ状況であることから、本年度から障害福祉サービス事業所へ対象を拡大したところであります。引き続き、介護人材確保に向けて、事業者と共に地元の専門学校との連携やイベント等を通じた介護職への就職促進に取り組んでまいります。あわせて、外国人介護人材の確保定着につきましても検討を進めているところです。

更には、地域ボランティアや民生委員、福祉委員、美浜町社会福祉協議会などの各種団体との連携により、高齢者の生活支援体制を強化するなど、必要なサービスが町全体に広く行き届くよう進めてまいります。

意見

開会初日の町長の挨拶の中に、福祉サービスの充実について「美浜町が現在考えておりますグループホーム及び関連サービスの施設整備に向けた検討や可能性の調査を進めています」ということがありました。

美浜町も福祉の充実、しっかりやっていく上で、グループホームの検討、調査を行う費用を提案されています。ぜひ実現してもらいたいのですし、町民に喜ばれる良いものにしていきたいと思っていますので、後押しの意味も含めて、今後経過をしっかりと見ていきたいと思います。



一般質問

一般質問はMMネットの行政チャンネルで翌日の午後8時、翌々日は午後1時から放送されています。

12月定例会では7人の議員が一般質問に立ち、町行政のあり方について、いただきました。



兼田 和雄 議員

① 美浜町の観光について

問

県の「WAKASA リフレクシユエリア」として嶺南市町は複数の観光受け入れ環境整備の目標がなされているが美浜町は若狭町との「熊川・新庄トレイルコース」の周遊や連携の推進」のみである。美浜町の観光ビジョンを伺う。

町長

観光は多岐にわたる地域産業を潤す「地域再生のエンジン」である。町の観光政策の方向性を明記した「美浜町観光振興計画」の改定に向け「観光開発審議会」や実務に従事する方の「若狭みはま観光地域づくり協議会」で議論し本年度内で改訂する。町を挙げて観光振興に全力で挑戦していく。

問

観光で重要なのは食事処と土産物店です。それらの観光施設は他市町に比べ少ない。観光施設への行

政からの支援策はどのようなものがあるのか。

観光誘客課長

町では観光入込客の増はもとより観光消費額の向上に繋がる「周遊滞在型観光」の推進に努めている。一方で、観光客による観光消費ロスが生じていることは観光データからも把握しており、そのため緊急的措置と中長期的観点からの事業者育成支援に取り組んでいる。町内飲食事業者等の新たな参画を促すための支援事業や、「美浜町創業支援事業補助金」を拡充するとともに、飲食や物販にかかる比較的大きな新規創業を促す「美浜町創業等にぎわい創出支援事業補助金」を新設した。

問

補助金を上げたり、補助率を上げることが今後考えているのか。

観光誘客課長

今年度で「創業支援事業」について補助率、補助金の上限を上げていく。大規模創業支援についても小売業や飲食店の場合上限を300万円から500万円に上げている。

問

町が今一番力を入れている「レイクセンタール」だが現状、実際の乗船

人数や乗船率、平均単価、売上利益等を伺う。

観光誘客課長

遊覧船事業につきましては今年4月に策定した経営強化戦略に基づき進めている。今年11月までの乗船者数は1万2千人で昨年同期の2割増し、乗船率は45%と大幅に向上している。収益面では平均約1750円で目標の12%減。乗船料の売り上げは約1850万円が目標の17%減となっている。国内旅行会社へのエージェンツ営業を開始したばかりで成果が出るのは来年春になる見込み。新たな取り組みとしては調整を進めていた若狭町海山への寄港について関係者との調整が整った。先月末にはEーバイクで巡るサイクルシップによる運行を実施した。今後も魅力あるイベントクルーズに取り組み、教育旅行や旅行会社等への営業を強化していく。

問

黒字化への方策はあるのか。

観光誘客課長

令和9年度中の黒字化を目指し、収益性の高い特別体験型イベントクルーズ等で平均乗船単価の底上げを狙う。今年度配置した営業専門員による営業展

問

開にも期待している。観光ビッグデータを使いこなす環境整備は整っているのか。

観光誘客課長

観光誘客を効果的に行うため観光客の属性やニーズ、行動を正確に把握するデータ分析を進めている。「福井県観光データ分析システム」や町独自の「観光アンケート調査」、行動分析ツール「おでかけウォッチャー」を活用し宿泊客のニーズを把握する仕組みを導入した。また、SNSの効果測定システムを導入し拡散状況をリアルタイムで把握し施策の検証改善につなげる。

② 観光資源としての「国吉城」について

問

各地の観光地を視察すると大型バスの駐車場、カプアスファルトと無電柱化は最低限の設備となっている。「国吉城」を抱える佐柿の今後の計画はどうか。

生涯学習推進課長

(社)佐柿国吉100年プラン推進委員会で景観保全や地域間交流を行っており、今年9月「歴史的景観を活かしたまちづくり構想」短・中・長期プランの

問

完成報告を受けた。カラーアスファルト舗装や木製ガードレールの整備、旧田辺半太夫家門扉の再建等に着手して、排水路整備計画等の事業化に向けた調査も進めている。

今、早急に取組まなくてはならないのが現在の佐柿の町並みを残すことであり、伝統的の家屋を保全することである。それには財政的支援が欠かせない。町並み保存の方向性と施策を問う。

生涯学習推進課長

佐柿は江戸から昭和の町家の歴史、変遷を見ることが出来る平成26年に福井県の「伝統的民家群保存活用推進地区」に認定され、うち2軒は「ふくいの伝統的民家」に認定されている。その2軒には外観修繕等の補助制度がある。その他歴史的価値の高い町屋数軒については文化財指定を受け保存活動を進めることが適当であると考え、保存に向け検討を進める。

意見

他の自治体では独自に補助金制度がある。個人での修景・保存にも限度がある。解体されれば元に戻らない。歴史をつなぐ意味でも早急に対策を講じて欲しい。



こうじょう ゆう ま 議員
幸丈 佑馬

① 福鉄バス菅浜線廃止に伴う代替交通の運行について

問

令和7年4月1日から、菅浜線代替交通の車両運行を開始しているが、現在までの利用状況はどのようになっているのか。

住民環境課長

令和7年10月末時点で、菅浜線代替交通の利用者数は1009名で、月平均144名となり、多い月では、200名の利用がある。

問

利用者数に対して、行政はどのように評価しているのか。



住民環境課長

地域の方に利用していただいているので有効な利用方法である。

予約や乗り換え等で敦賀に行く際は、不便をかけることがあると思うが、有効な交通手段と考えている。

問

福鉄バス若狭線への乗り換えは100%うまいことしているのか。

住民環境課長

若狭線への乗り換えでバスに乗り遅れたという利用者や運行事業者からの報告はないことから、乗り換えに関しては問題なく運行できている。

問

足の不自由な人や高齢者などは乗り換えをせずに、敦賀市内まで行きたいとの声がある。また、利用者からも一番多く言われる。町としてどのように考えているのか。

住民環境課長

菅浜線代替交通を含めたチョイソコみはまの敦賀までの運行については、現行の公共交通機関の運行や、経営に大きな影響を及ぼす恐れがあり、事業者から懸念する声がある。敦賀市内まで運行する場合、車両の増はもとより、複数の運転手が容易に確保できる状況はなく、町域を含めた運行サービスの低下、また、運用

面や経済面も含め、慎重に検討を重ねていく必要がある。

このような状況の中で、本年度より福鉄バス若狭線については、町民の負担軽減および利用促進を目的とした運賃助成を実施し、利便性の向上を図っているところである。

チョイソコみはまと既存の公共交通を組み合わせ利用していただくことで、チョイソコみはまの運行効率の低下を防ぐとともに、既存の公共交通機関の維持を図りながら、町民の敦賀市内までの交通手段を確保していきたいと考えている。

問

敦賀市内までの運行が費用の面や運転手の面で厳しいというが、できるかできないかと言えば、やることは可能なのか。

住民環境課長

物理的には可能である。

意見

どの地域の方からも敦賀市内まで運行してほしいとの声が多いので、前向きに考えてほしい。

問

現行の運行時間は、平日は19時まで。休日は18時までだが、習い事や飲み会などで利用したいことから、21時もしくは22時までに延長することはできないのか。

住民環境課長

菅浜線代替交通の運行時間は、福鉄バス若狭線への乗り継ぎができるように、若狭線の運行時間帯に合わせて設定している。また、チョイソコ全体における利用者については、午前9時から午後5時までの利用が約8割を超えており、午後7時以降の利用者は、全体の約2%と、非常に少ない状況になっている。運行時間を延長するには、運転手の増員確保や経済面、また、タクシー事業者との調整が必要となることから、慎重に検討する必要があると考えている。

問

運転手の体調不良等により、急に休むことや、また高齢な方が多いということなので急に退職されることも想定されるが、そのような場合は運行に影響が出ることがないのか。

運転手の急な退職など突発的なことが起きた場合は、住民環境課



職員4名で当面の対応を行い、運行に影響が出ないよう努めている。また、不測の事態が起きた場合は、運転手の負担とならないように、新たな運転手を確保できるように努めていきたいと考えている。

問

菅浜線代替交通を良いたものにしていくには、利用者や住民の声を聞き続ける必要があると考えているが、町としてどのように考えているのか。

住民環境課長

9月から10月にかけて、丹生・竹波・菅浜区の住民263世帯にアンケートを実施した。福鉄バス菅浜線を利用していた人は、年に数回から週に数回の人は約21%、利用したことがない人は約72%である。アンケート結果では、チョイソコだと楽で早いや料金が安いといった意見がある一方、乗り換えが必要、予約が面倒くさいなど不便になったといった意見もある。それらの意見を踏まえながら、利用状況や運転手の確保、財政面などの課題等検討しながら、継続して住民や利用者の意見等を聴きながら、持続的でよりよい公共交通となるよう取り組んでいきたいと考えている。

20歳のつどい

希望を持って
新たな旅立

皆さん
おめでとうございます



1月11日、今年の「20歳のつどい」が行われました。今年町内で迎えられた方は67名でした。艶やかな振袖姿と凛々しいスーティストایلは式典に華やかさを添え、久しぶりに再会する級友の表情は笑顔満面でした。

これからも、お世話になった方々の感謝を忘れず、夢と希望を持って将来の美浜町づくりに大きく羽ばたいて下さい！エールを送ります。

お知らせ インターネット 配信開始！

今年2月から、美浜町のホームページより美浜町議会（令和7年度12月本会議）のインターネット配信動画を見ることができるようになります。



編集後記



近年デジタル化が進み、携帯電話（スマホ）一台あれば、何でもこなせる時代となりました。議会でも令和2年からDX（デジタル技術を活用した改革）を取り入れ、議員のタブレット導入、本会議場・全員協議会室の音声文字翻訳等、デジタル化は大きく進歩しました。議会のインターネット配信も始まります。議会の見える化の促進を図るべく「議会と語ろう会」の開催、「議会だより」の発行はもとより、第歩を踏み出した中学生議会の開催に期待します。

（辻井 記）

美浜町議会広報特別委員会

【委員長】辻井雅之
【副委員長】幸丈佑馬
【委員】藤本 悟・松下 照幸
高橋 修・上道 正二
兼田 和雄